

令和5年度 自己評価

岡山白ゆり発達支援センター

支援の提供

- ・子どもたちに怪我や事故が起きないように日頃からの職員間の情報共有や事前ミーティングを行った。支援における環境設定等の大切さを再度考えさせられることも多く、周りの方々に支えられていることも強く感じた。
- ・1年を通して子どもたちの成長を感じる事ができた。できることが増え自信につながっている子どもも多く見受けられる。
- ・職員がいつもとは違うレッスンに入ることで、お互いの支援方法や活動内容を間近で見ることができ、勉強する機会にもなった。積極的に研修等に参加し、職員一人ひとりのスキルアップもしていきたい。

保護者等の説明や連携等

- ・事業所内での様子やできたこと等を伝えるだけでなく、家庭や園、学校等での様子を聞いたり心配事等をできる限り傾聴し、後日改めて相談の場を設けることもあった。
- ・園や学校の先生、相談支援専門員の事業所の見学に対応し、情報共有、連携を行った。
- ・成長した分、新しい課題に直面する場合もあるので、子どもたちにはもちろん、保護者の方にもしっかりと寄り添いながら療育や相談をしていきたい。

感染症対策

換気や消毒、体調チェックを引き続き行った。今後も子どもたちはもちろん職員の体調管理も行うとともに、感染症対策にもしっかりと取り組んでいきたい。

非常時等の対応

- ・虐待防止と身体拘束の適正化研修と委員会を開催し、内容の確認等を行う。
- ・不適切な療育の防止不適切な療育にならないよう話し合いの機会を設け、随時注意喚起、振り返りを行う。
- ・避難訓練を行うとともにマニュアル等の内容の確認や共有を行い、改善点を話し合った。